

もうひとつの写真 —写真的なるものをめぐって— —Another Photography—

秋岡美帆

ベルナール・ボルジョー

ヴィヤ・セルマン

三輪美津子

森村泰昌

スーザン・ランカイトス

Miho Akioka

Bernard Borgeaud

Vija Celmins

Mitsuko Miwa

Yasumasa Morimura

Susan Rankaitis

1996年4月6日(土) — 5月26日(日)

午前10時—午後6時/木・金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)
月曜日休館(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館、その翌日休館といたします)

●講演会・フロアレクチャー

[講演会]

日時=4月6日●午後3時—5時

会場=東京都写真美術館1階ホール(無料)

講師=ベルナール・ボルジョー 他

[フロアレクチャー]

日時=4月26日●/5月10日●/5月24日● それぞれ6時より

●展覧会のお問い合わせはハローダイヤル03-3272-8600へ



東京都写真美術館 [2階企画展示室]

〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031(代表)

主催：東京都写真美術館 協力：東武鉄道株式会社

●次回展覧会予定

[東京写真月間'96]

*第2次大戦もうひとつの秘史「マンザナー日系人収容所——宮武東洋とドロシー・ラング」展(6月1日—16日)

*シンポジウム「社会における美術館と写真」(6月2日)

*シンポジウム「ヨーロッパの写真家がとらえた東京」(6月16日)

観覧料	企画展観覧券	企画展・常設展共通券
大人	600円(480円)	1000円(800円)
小・中・高校生	300円(240円)	500円(400円)

●()内は20名以上の団体料金

●小学生未満・65歳以上の方、及び障害をお持ちの方は無料。

もうひとつの写真 —写真的なるものをめぐって—
—Another Photography—



秋岡美帆 Miho Akioka

ベルナール・ボルジョー Bernard Borgeaud

ヴィヤ・セルマン Vija Celmins

三輪美津子 Mitsuko Miwa

森村泰昌 Yasumasa Morimura

スーザン・ランカイトス Susan Rankaitis

写真発明から150年以上を経て、写真は日常生活の中であたりまえのものとして存在しています。

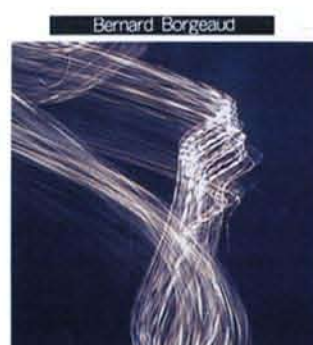
現在、私たちが「写真」についてイメージするのはどのようなものでしょうか。それはピントのボケた、いわゆるアウト・フォーカスの美しい画像であったり、ハイライトにしみながらきらめいている光であったり、光学的なパースペクティブであったりしますが、それらが描かれたのは写真発明の年より2世紀近くも前のことなのです。そうであるなら、私たちは写真発明よりも以前に写真的視覚、それもカラー写真のそれを手に入れていたと言えるでしょう。

今日、コンピュータ・グラフィックスの進歩なども手伝って、実際には存在しない景色を写真のようなものとして記録することがそうめずらしくなっています。私たちにとって、「写真」とは何かの問いをおさることが必要であり、それが可能な場所にいるのです。

ヴィヤ・セルマンの作品は写真をもとに制作されていますが、その係わり方は多分にコンセプチュアルであり、典型的なアーティスト・アーティスト(真のアーティスト)と評価されています。



秋岡美帆「ゆれるかざり」1993. 10.1
©Miho AKIOKA



ベルナール・ボルジョー「Viré」1995
©Bernard BERGEAUD



ヴィヤ・セルマン「Suspended Plane」1966
©Vija CELMINS



三輪美津子「Kitchen」1991
©Mitsuko MIWA



森村泰昌「Mother (Judith I)」1991
©Yasumasa MORIMURA



森村泰昌「Mother (Judith II)」1991
©Yasumasa MORIMURA



スーザン・ランカイトス「DNA93-1」1993
©Susan RANKAITIS

スーザン・ランカイトスは、フォトグラムとの関係で語られることの多い作家ですが、技術的には今回の作家のなかでもっとも「写真的」制作手順を採っているかもしれません。

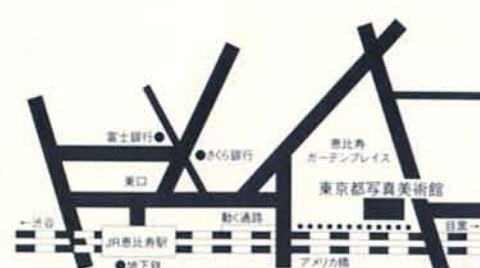
秋岡美帆は、今では多くの作家に使用されているNecoプリントを、最も早くから使用している作家です。その抽象的なイメージと大きな画面から受ける印象は、写真という言葉から受ける感じとは、かなり異なるものがあります。

三輪美津子は、一見傾向の異なる作品を変わり身のはやで展開してきました。写真から制作され、写真のアレゴリーとしても存在するかのような作品は、彼女のなかでも重要な位置を占めています。

ベルナール・ボルジョーは、フランスではかなり高名な作家です。1970年代以降のバリにおいて、ボルジョーは、ポルトゥガーズやメサジェそれにサルキスといった作家たちと特徴的な活動を繰り広げています。日本の作家とも米国の作家とも異なる時間や空間、物質、記憶との係わり方をみせる動きだったと言えるでしょう。

森村泰昌については、あらためて紹介する必要はないでしょう。現代のイメージ操作技術を駆使して創られる作品は、あらゆる意味において幻惑的なものです。

本展では、6作家の絵画と写真およびその境界に属する24の作品により、歴史のなかで獲得し、または獲得したと思ひ込んできた「写真的」なものについて再考し、「写真」とは何かを検証します。



交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩8分(恵比寿カーテンプレイス内)
お車でのご来館はご遠慮ください

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

〒153 東京都目黒区三田1-13-3
Tel.03-3280-0031(代表)